



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月9日

上場会社名 株式会社 エスライングループ本社
コード番号 9078 URL <https://sline.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山口 嘉彦

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 白木 武

TEL 058-245-3131

四半期報告書提出予定日 2023年11月10日

配当支払開始予定日

2023年12月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|--------|------|------|-------|------|-------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2024年3月期第2四半期 | 24,498 | 3.0 | 264 | △9.9 | 325 | △10.6 | 220 | △5.0 |
| 2023年3月期第2四半期 | 23,779 | △0.6 | 293 | △48.0 | 363 | △42.9 | 231 | △46.9 |

(注)包括利益 2024年3月期第2四半期 389百万円 (237.5%) 2023年3月期第2四半期 115百万円 (△72.7%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年3月期第2四半期 | 20.29 | — |
| 2023年3月期第2四半期 | 21.37 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2024年3月期第2四半期 | 41,542 | 26,984 | 65.0 |
| 2023年3月期 | 42,075 | 26,743 | 63.6 |

(参考)自己資本 2024年3月期第2四半期 26,984百万円 2023年3月期 26,743百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年3月期 | — | 8.00 | — | 14.00 | 22.00 |
| 2024年3月期 | — | 8.00 | — | — | — |
| 2024年3月期(予想) | — | — | — | 14.00 | 22.00 |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-----|------|-----|-------|-----|---------------------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 49,000 | 1.9 | 900 | 8.3 | 1,050 | 1.1 | 650 | △55.1 | 59.92 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|------------|--------------|------------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2024年3月期2Q | 11,095,203 株 | 2023年3月期 | 11,095,203 株 |
| ② 期末自己株式数 | 2024年3月期2Q | 245,081 株 | 2023年3月期 | 248,981 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 2024年3月期2Q | 10,847,672 株 | 2023年3月期2Q | 10,846,038 株 |

※期末自己株式数には取締役に対する業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」および当社の一部のグループ会社社員対象の株式給付制度「株式給付信託(J-ESOP)」のために設定した株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式(2024年3月期2Q 126,600株、2023年3月期 130,500株)が含まれております。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(2024年3月期2Q 129,049株、2023年3月期2Q 130,746株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料および四半期決算説明会資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

当社は、2023年11月22日(水)に決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会の資料については、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 9 |
| (追加情報) | 9 |
| (セグメント情報) | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5月には5類に移行したことにより経済社会活動の制限が緩和され、景気は緩やかに持ち直しの傾向が見られたものの、長期化するロシア・ウクライナ問題や、世界的な金融引き締め政策の継続による円安の進行や資源価格の高騰による物価上昇が続いており、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、経済活動の回復と共に貨物輸送物量が増加するものと期待しておりましたが、コロナ禍を契機に新たな生活様式として、幅広い世代でeコマースの利用が定着し、宅配便での商品購入が増加し、企業間の貨物輸送物量は低調に推移しました。また、長引く原油価格の高騰により軽油単価や光熱費等の高値が続いている事や、ドライバー不足や2024年問題への対応等、労働環境の改善課題も多く、当社グループを取り巻く経営環境は非常に厳しい状況が続いております。

このような厳しい環境のもと、当社グループは、2年目となります中期経営計画（テーマ：「ありがとう創造計画」）の経営目標達成と企業価値の向上に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいりました。その取り組みの一つとして、グループ経営のさらなる推進・強化を図るとともに、グループ全社員が一丸となって、同じビジョン、同じ目標に向かい、持続的な成長を目指すために、この7月に「株式会社エスライン」から「株式会社エスライングループ本社」に商号を変更いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、営業収益244億98百万円（前年同期比3.0%増）、営業利益2億64百万円（前年同期比9.9%減）、経常利益3億25百万円（前年同期比10.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億20百万円（前年同期比5.0%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

〔物流関連事業〕

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等があります。主なサービス部門として「輸送サービス」「物流サービス」「ホームサービス」があります。

トラックによる企業間輸送を主とする輸送サービス部門では、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより行動制限が緩和され、外国人観光客によるインバウンド需要の復活や、国内旅行者の増加等、外出機会が増えたことで、経済活動は回復に向かうと期待しておりましたが、衣料品や食料品、日用雑貨品等の生活関連商品の値上げが続いていることによる購買意欲の低下や、ネット通販等のto C物流が増加したことにより、企業間物流の貨物輸送物量は低調に推移しました。このように貨物輸送物量が伸び悩むなかで、人件費や燃料費をはじめとする固定的な輸送原価の上昇分を補うために、燃料サーチャージの収受や運賃値上げ交渉等の営業活動に継続して取り組んでまいりました。また従来の特積み貨物以外の輸送領域として、京浜港湾地区での輸入貨物を取り扱う「㈱エスラインギフ京浜港湾センター」や中部地区の地域貸切を取り扱う「㈱エスラインギフ中部貸切業務センター」を中心に貸切業務の拡大にも取り組んでまいりました。さらには本年3月にオープンした㈱エスラインギフ海老名支店および海老名物流センターを関東の玄関口拠点として関東圏内における輸送と物流サービスの一貫物流センターとして安定稼働させるために営業活動を進めてまいりましたが、全体としては減収となりました。

商品保管や物流加工を行う物流サービス部門では、過年度に新築した自社保管施設や賃借施設等による増床効果に加え、交通アクセスの利便性を活かした中部地区での保管施設の有効活用により増収となりました。また、流通加工業務においても、取引先からの業務移管要請もあり、物流サービスは増収となりました。

家電配送・設置業務や大型貨物の個人宅配を行うホームサービス部門では、この夏の猛暑によるエアコン設置工事の増加を期待しておりましたが、想定を下回る取扱量となりました。また白物家電の配送・設置業務につきましても全体的に伸び悩み、低調に推移しましたが、昨年9月に㈱クリエイトを子会社化し、東北地区における家電配送網の面の拡大に取り組んだ結果、増収となりました。

また、引越しサービスにおきましては、㈱エスラインギフ引越事業センターを強化し、オフィス引越しを積極的に取り組んだことにより、ホームサービス部門全体では増収となりました。

経費面では、原油価格の高騰による燃料費の増加、また社員の待遇改善や、求人費・社員教育費等の人件費の増加、さらには、新施設の減価償却費や施設使用料等の経費も増加するなかで、生産性の向上や作業効率の改善に努めるとともに、あらゆる経費の削減に取り組んでまいりました。

この結果、物流関連事業の営業収益は241億3百万円（前年同期比3.0%増）、セグメント利益は4億58百万円（前年同期比2.0%減）となりました。

[不動産関連事業]

不動産関連事業におきましては、当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は2億24百万円（前年同期比0.0%増）、セグメント利益は1億29百万円（前年同期比1.3%増）となりました。

[その他]

主に、旅客自動車運送事業および充電事業を営んでおります。旅客自動車運送事業におきましては、クラブ・サークル活動等の遠征や冠婚葬祭時の送迎業務が、一部回復したことで、増収となりました。

また、売電事業におきましては、㈱エスラインギフの名古屋第1・第2センター、豊橋支店、豊田支店、豊田センターおよび㈱スリーエス物流の本社第1センターの計6か所で発電を行っております。（総発電量1,333.96kW）

この結果、その他事業の営業収益は1億70百万円（前年同期比4.3%増）、セグメント利益は26百万円（前年同期比13.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の連結資産合計は415億42百万円となり、前連結会計年度末比5億32百万円減少しております。この主な要因は、現金及び預金の減少と減価償却による有形固定資産の減少によるものであります。

また、連結負債合計は145億58百万円となり、前連結会計年度末比7億72百万円減少しております。この主な要因は借入金の返済、未払法人税等の減少と流動負債のその他が減少したことによるものであります。

連結純資産合計は269億84百万円となり、前連結会計年度末比2億40百万円増加しております。この主な要因はその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末より8億24百万円資金が減少し37億32百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、9億88百万円の収入（前年同期は9億62百万円の収入）となりました。この主な収入は税金等調整前四半期純利益と減価償却費の計上であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、11億41百万円の支出（前年同期は7億86百万円の支出）となりました。この主な支出は有形固定資産及び無形固定資産の取得によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、6億70百万円の支出（前年同期は7億28百万円の支出）となりました。この主な支出は借入金の返済によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月6日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、実際の業績につきましては、今後の様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,677 | 3,863 |
| 受取手形及び営業未収入金 | 5,725 | 5,897 |
| 貯蔵品 | 147 | 192 |
| その他 | 473 | 491 |
| 貸倒引当金 | △8 | △8 |
| 流動資産合計 | 11,015 | 10,436 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 13,322 | 12,932 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 2,424 | 2,465 |
| 土地 | 11,846 | 11,875 |
| リース資産（純額） | 65 | 58 |
| 建設仮勘定 | — | 0 |
| その他（純額） | 206 | 194 |
| 有形固定資産合計 | 27,865 | 27,526 |
| 無形固定資産 | 627 | 775 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,432 | 1,653 |
| 退職給付に係る資産 | 205 | 238 |
| 繰延税金資産 | 148 | 148 |
| その他 | 833 | 817 |
| 貸倒引当金 | △53 | △53 |
| 投資その他の資産合計 | 2,566 | 2,804 |
| 固定資産合計 | 31,059 | 31,106 |
| 資産合計 | 42,075 | 41,542 |

（単位：百万円）

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び営業未払金 | 5,008 | 5,045 |
| 短期借入金 | 430 | 230 |
| 1年内償還予定の社債 | 10 | 10 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 965 | 887 |
| 未払法人税等 | 348 | 196 |
| 賞与引当金 | 464 | 480 |
| 役員賞与引当金 | 31 | 29 |
| 設備関係支払手形 | — | 3 |
| その他 | 1,166 | 1,014 |
| 流動負債合計 | 8,424 | 7,897 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 75 | 70 |
| 長期借入金 | 795 | 578 |
| 繰延税金負債 | 2,618 | 2,616 |
| 役員退職慰労引当金 | 63 | 61 |
| 株式給付引当金 | 61 | 70 |
| 役員株式給付引当金 | 35 | 43 |
| 退職給付に係る負債 | 2,347 | 2,307 |
| 資産除去債務 | 634 | 636 |
| その他 | 273 | 276 |
| 固定負債合計 | 6,906 | 6,661 |
| 負債合計 | 15,331 | 14,558 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,237 | 2,237 |
| 資本剰余金 | 2,959 | 2,959 |
| 利益剰余金 | 21,223 | 21,289 |
| 自己株式 | △250 | △245 |
| 株主資本合計 | 26,170 | 26,241 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 391 | 564 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 182 | 178 |
| その他の包括利益累計額合計 | 573 | 742 |
| 純資産合計 | 26,743 | 26,984 |
| 負債純資産合計 | 42,075 | 41,542 |

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 営業収益 | 23,779 | 24,498 |
| 営業原価 | 22,505 | 23,263 |
| 営業総利益 | 1,273 | 1,235 |
| 販売費及び一般管理費 | 979 | 970 |
| 営業利益 | 293 | 264 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 0 |
| 受取配当金 | 17 | 18 |
| 受取賃貸料 | 16 | 13 |
| 助成金収入 | 21 | 23 |
| 持分法による投資利益 | 4 | 2 |
| その他 | 20 | 11 |
| 営業外収益合計 | 80 | 69 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 5 | 4 |
| 債権売却損 | 5 | 4 |
| その他 | 0 | 0 |
| 営業外費用合計 | 10 | 9 |
| 経常利益 | 363 | 325 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 20 | 37 |
| 受取補償金 | 8 | — |
| 特別利益合計 | 29 | 37 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 0 | 2 |
| 特別損失合計 | 0 | 2 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 393 | 360 |
| 法人税等 | 161 | 139 |
| 四半期純利益 | 231 | 220 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 231 | 220 |

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

| | 前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日） | 当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日） |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 231 | 220 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △27 | 173 |
| 繰延ヘッジ損益 | △80 | — |
| 退職給付に係る調整額 | △8 | △3 |
| その他の包括利益合計 | △116 | 169 |
| 四半期包括利益 | 115 | 389 |
| （内訳） | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 115 | 389 |

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

| | 前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日） | 当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日） |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 393 | 360 |
| 減価償却費 | 990 | 1,010 |
| のれん償却額 | — | 22 |
| 貸倒引当金の増減額（△は減少） | 41 | 0 |
| 退職給付に係る負債の増減額（△は減少） | △20 | △35 |
| 役員退職慰労引当金の増減額（△は減少） | 1 | △2 |
| 賞与引当金の増減額（△は減少） | △13 | 15 |
| 役員賞与引当金の増減額（△は減少） | △18 | △1 |
| 株式給付引当金の増減額（△は減少） | 9 | 9 |
| 役員株式給付引当金の増減額（△は減少） | 7 | 7 |
| 受取利息及び受取配当金 | △17 | △18 |
| 支払利息 | 5 | 4 |
| 持分法による投資損益（△は益） | △4 | △2 |
| 有形固定資産売却損益（△は益） | △20 | △37 |
| 有形固定資産除却損 | 0 | 2 |
| 営業債権の増減額（△は増加） | 465 | △171 |
| 棚卸資産の増減額（△は増加） | △32 | △45 |
| 営業債務の増減額（△は減少） | △384 | 36 |
| その他 | △324 | 166 |
| 小計 | 1,076 | 1,322 |
| 利息及び配当金の受取額 | 19 | 21 |
| 利息の支払額 | △5 | △4 |
| 法人税等の還付額 | 155 | 107 |
| 法人税等の支払額 | △284 | △458 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 962 | 988 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △49 | △54 |
| 定期預金の払戻による収入 | 62 | 42 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △2 | △2 |
| 投資有価証券の売却による収入 | — | 5 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △799 | △806 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 21 | 40 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △11 | △372 |
| その他 | △7 | 6 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △786 | △1,141 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額（△は減少） | 150 | △200 |
| 長期借入れによる収入 | — | 200 |
| 長期借入金の返済による支出 | △707 | △495 |
| 自己株式の取得による支出 | △0 | — |
| 配当金の支払額 | △153 | △153 |
| その他 | △17 | △21 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △728 | △670 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | — | — |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | △552 | △824 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,824 | 4,556 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,271 | 3,732 |

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（追加情報）

前連結会計年度の有価証券報告書の「追加情報」に記載した「新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り」について重要な変更はありません。

（セグメント情報）

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|--------------------|------------|-------------|--------|--------------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 物流関連 事業 | 不動産関連 事業 | 計 | | | | |
| 営業収益 | | | | | | | |
| 外部顧客への営業収益 | 23,391 | 224 | 23,615 | 163 | 23,779 | — | 23,779 |
| セグメント間の内部営業収益又は振替高 | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 23,391 | 224 | 23,615 | 163 | 23,779 | — | 23,779 |
| セグメント利益 | 467 | 128 | 596 | 30 | 626 | △332 | 293 |

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅客自動車運送事業、売電事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△332百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および㈱エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|--------------------|------------|-------------|--------|--------------|--------|--------------|--------------------------------|
| | 物流関連 事業 | 不動産関連 事業 | 計 | | | | |
| 営業収益 | | | | | | | |
| 外部顧客への営業収益 | 24,103 | 224 | 24,327 | 170 | 24,498 | — | 24,498 |
| セグメント間の内部営業収益又は振替高 | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 24,103 | 224 | 24,327 | 170 | 24,498 | — | 24,498 |
| セグメント利益 | 458 | 129 | 588 | 26 | 615 | △350 | 264 |

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅客自動車運送事業、売電事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△350百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および㈱エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。